

目で見る
富山県勢

県民のつらつ

昭和46年



▲世界最初のエヴェレスト登山者
「ヒラリー」夫妻(雄山頂上で)

トの玄関桂台—美女平間—一般自動車道



▲日本一高所のロープウェイは快適に走る

▼テープカットする
中田富山県知事ら

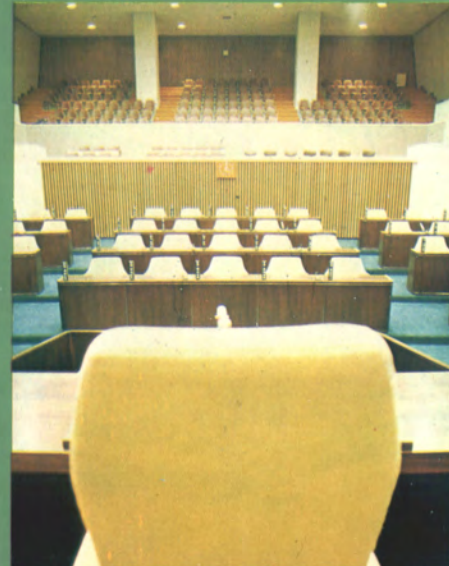


新しい富山県の立法の場



▲ 県庁のとなりに完成した富山県議会議事堂

▼ 議長席から議員席と傍聴席をみた議場



愛と繁栄

日本の
いや世界のどこかに
より心豊かな
より住みよい
ゆとりのある
美しい天地をと
もし
あなたが求めるなら
即座に
〈それは富山県だ〉
といえる
そんな郷土にしたい
これは私のねがいである

富山県知事 中田 幸吉



▲ 高岡にある二上青少年の家で こどもらと語る中田富山県知事

価値ある県民生活

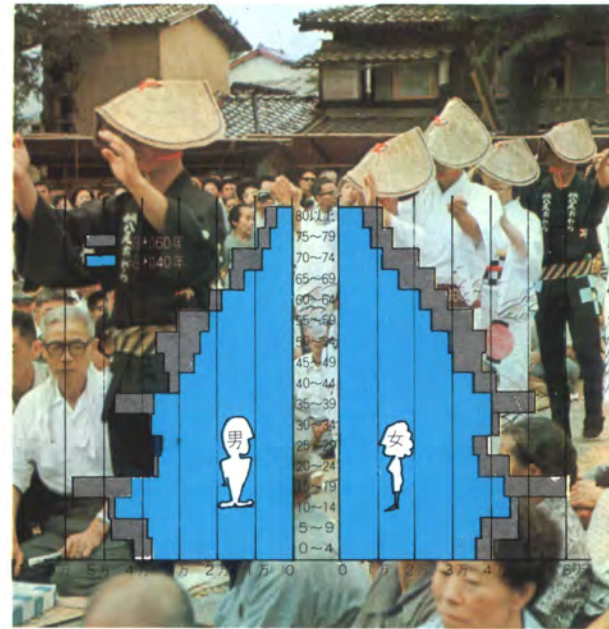
第4次富山県勢総合計画

日本経済は驚くべき成長をとげましたが反面、全国的に公害問題が続発し、交通事故の激増、生活環境施設の立遅れなどが、厳しい現実となってあらわれています。

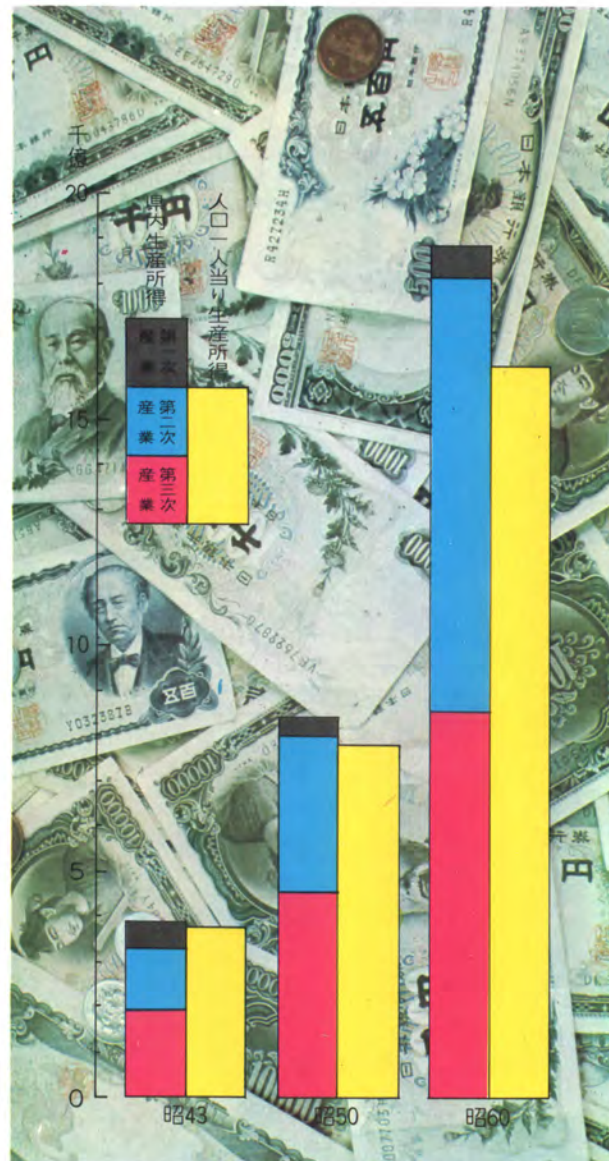
県では、この現実をふまえ「価値ある県民生活」をめざして、第4次富山県勢総合計画をたてました。

県民の福祉を優先するこの計画は、昭和60年に目標を合わせて、交通網の整備、生涯教育体制の拡充などを基本的な課題としています。

5才階級別の富山県人口の推移



県内生産所得の見通し



▲明るく楽しい富山県をマンガ風に画けば……

▼「富山県の実情を気軽に勉強してきて下さい」と中田知事のあいさつ

好評サクサク 県政バス教室

富山県が45年度から始めた「県政バス教室」は、たいへん好評で、今年も年間10回県内各地の施設や事業を、説明しながらまわります。



富山県が三大都市と結ぶ幹線図



■富山県に繁栄をもたらす



港

日本海沿岸の最大貿易港として、活発に動きだした富山新港、そして輸出入の拡大により、着々整備充実されてゆく富山港や伏木港は、富山県の経済発展のパイロットの役目を果たしています。背後地には、既設産業に対応して、関連産業がドンドンつくられています。

いっぽう、漁業は沿岸漁業不振という深刻な問題を抱えながらも、近海から遠洋へ、獲る漁業から造る漁業へと、意欲さかんです。

▼工業出荷額の大巾増加や 予想される港湾陸揚げ貨物量の増大から 背後地に輸送機関の整備を急ぐ富山新港



▼北洋へ向って今年も出航する漁船団—魚津港—



▼戦後はじめての中国船が入港して 肥料の積み込みに大わらわの富山港





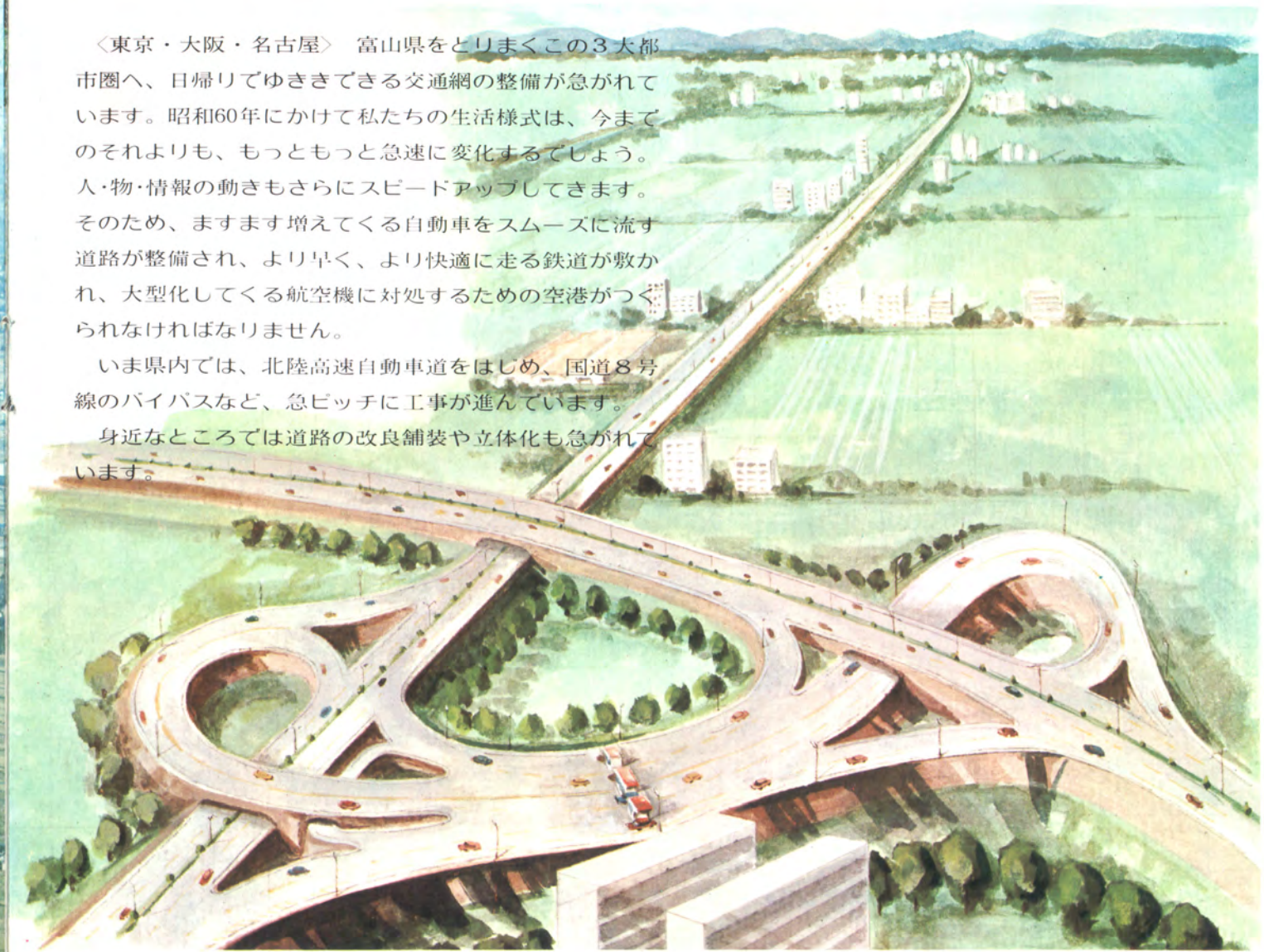
■富山県に繁栄をもたらす

交通網の整備

〈東京・大阪・名古屋〉 富山県をとりまくこの3大都市圏へ、日帰りゆききできる交通網の整備が急がれています。昭和60年にかけて私たちの生活様式は、今までのそれよりも、もっともっと急速に変化するでしょう。人・物・情報の動きもさらにスピードアップしてきます。そのため、ますます増えてくる自動車をスムーズに流す道路が整備され、より早く、より快適に走る鉄道が敷かれ、大型化してくる航空機に対処するための空港がつけられなければなりません。

いま県内では、北陸高速自動車道をはじめ、国道8号線のバイパスなど、急ピッチに工事が進んでいます。

身近なところでは道路の改良舗装や立体化も急がれています。



富山インターチェンジの予想図

▼国道8号線のバイパス線の全線開通は近い



▲このような立体交差道は県下各地につくられます 魚津→生地→入善線

■若い世代を育てる

韓国・台湾・香港へ9月27日富山 新港から鹿島立ち

「井の中の蛙、大海を知らず」という古語がありますが、見聞を広めることは、いつの時代でも大切であります。県では、県内の青年を海外に旅行させ、国際的視野にたつて郷土に対する認識を深めさせようと、〈富山県青年の船〉を企画しました。

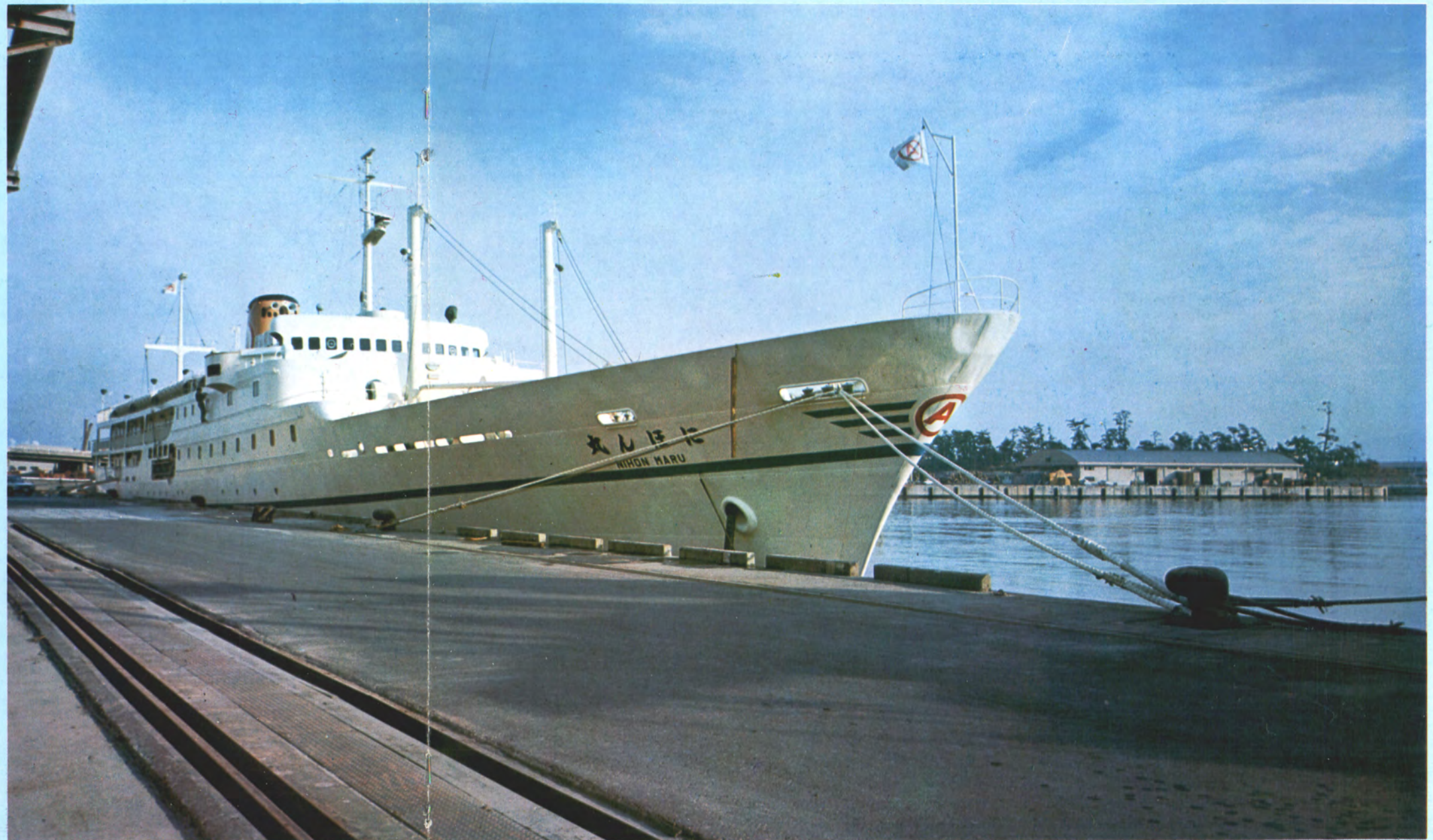
第一回はことし9月27日に富山新港から出航するチャーター船日本丸に乗船、韓国・台湾・香港を訪問して10月8日に帰ります。

■第1回富山県青年の船の日程



富山県 青年の船

▼富山新港から出航する富山県青年の船「日本丸」の偉容 総トン数3000トン—田子の浦にて—



▲竹島出納長がテープカット



▲韓国の土産品



台湾の土産品 ▶



◀ 香港の土産品



▲富山市街と立山連峰—県民会館屋上から—

■ **住みよい富山県をつくる**

構想なった 住みよい都市

公害のない、住みよい、働きやすい街をつくりたい。こんな願いから、富山市や高岡市を中心に、市街化するとところと、そうでないところを定めて、無秩序に広がるスプロール(虫くい現象)を防ぐとともに、都市施設を整備します。



▲高岡市街を農協会館屋上から見る

■ **富山県に繁栄をもたらす
農業生産の拡大**



▲うまい米「越中米」はやはり農業の中心

米の生産調整という、厳しい問題を抱えた農業は、水稻を基幹としながらも既に一部で盛んになっている果樹・野菜・花き栽培や畜産などに目をむけ、農業生産の拡大をめざしています。

▼越の白柿はふるさとの味で勝負



▲新鮮な野菜の生産は増える



▲チューリップの生産高は日本1

澄んだ空、清らかな水、美しい緑

—こんな美しい光景はむかしは平野にもあった とり返そう きれいな水を 空気を—



▲公害のない住みよい郷土を—雄山と みくりが池—

老いたりといえど

「老人に生きがいを、そうです同感です。仕事に打込んでおられる私は、たいへん幸せだと思っています。達者がなによりです」と滝川さんは74才とも思えない若々しい声で話してくれました。

▼きょうも元気に印刷工場で働く滝川さん(八尾町)



▲老人にいきがいをと 開設された高令者無料職業紹介所

カシコイ消費者に

私たちの生活は、ある意味では確かに豊かになりました。しかしその反面、便利さや、楽しさ、美しさなどにまどわされていないでしょうか。かしこい消費者とは <よくみて><きいて><考える>方をいいます。

ことし県民会館4階に『消費生活センター』ができます。十分にご利用下さい。

●このようなマークで選ぼう

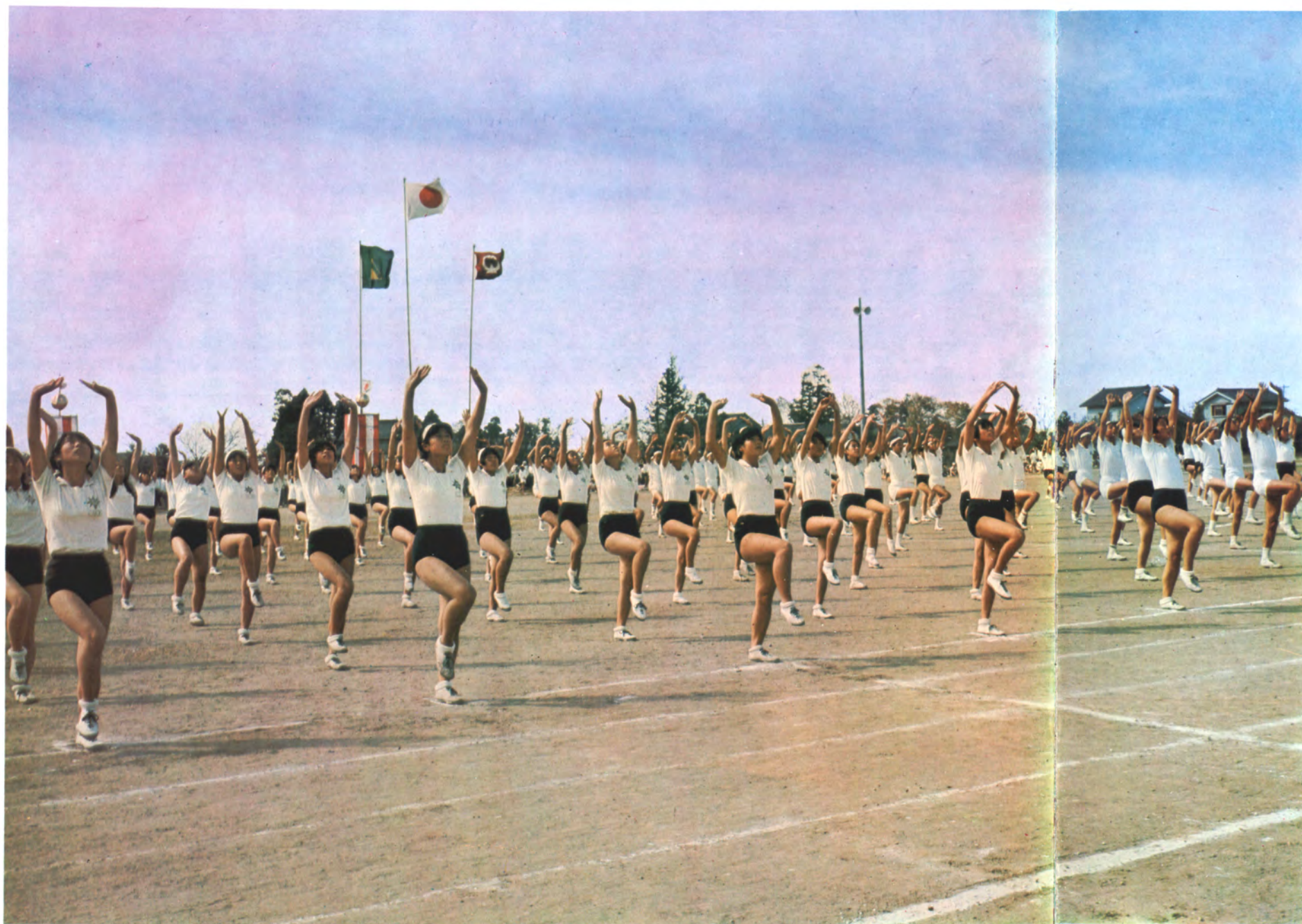


元気で明るくたくましく

つねに健康で、かつ余裕のある体力をつくる、これが〈体力づくり〉です。

まずバランスのとれた食生活、次からだのトレーニング、そしてこれらを毎日続ける努力(根性)が必要です。

成人病や職業病に打ち勝つためにも、すばらしい社会をつくるためにも、あなた自身の健康、体力が基礎になるのです。



▲新しく民謡体操を取り入れた 第2回体力づくり県民大会—滑川中学校で おわら体操を披露する八尾中学の生徒



▲これが1人1食分のメニューです



▲不自由な足もなんのその「次は僕の番だ」と 高志学園のよい子たち

■住みよい富山県をつくる

火の用心

昭和45年の火災から

件数	475件
罹災人員	1,264人
死者	10人
負傷者	83人
損害額	4億8,252万7千円
原因	1位 エントツなどの不仕末
	2位 火遊び
	3位 たばこ火の不仕末
	4位 石油ストーブ

上表は県内の昨年一年の火災の状況です。一瞬の油断から起る火災です。おたがいにせつかく築いた尊い財産です。しっかりと守りましょう。



▲富山市の消防出初式

雪に挑戦

「雪の降るのは自然現象、雪国だもの」とおきめずに、〈雪は消えるもの、積らすな〉と研究が続けられています。これはというアイディアはありませんか。



▲融雪作戦第一弾は水で挑戦しました



▲これでもかと 電気ヒーターを路面下に



EXPO '70

人類の進歩と調和

日本万国博覧会

●富山県関係スナップ



昭和45年3月15日から半年、アジアで初めての万国博覧会が、吹田市千里ヶ丘で華々しく開催、約6000万人の内外人が訪れました。

7月12日からの富山県の日や、日本の祭りに出場した郷土民謡のスナッフをここに掲げ、すばらしかったこの世紀の行事を追憶してみました。



県選出のミス万博三人娘



見学する中田富山県知事



富商プラスバンドを先頭に



地方自治館で 富山県スライドで紹介

ついに完成!

立山・黒部 アルペンルート

6月から全線開通

富山県が世界に誇る日本の屋根
(立山連峰)へ、車に乗ったまま登
れたらという夢の道が、この6月
から、その名も『立山アルペンル
ート』として開通します。自然を
守りながら、たくさんの人々に、
その雄大な立山の姿を觀賞してい
ただき、黒四ダムを通過して、富山
と長野を結ぶこのルートは、富山
県の宝です。



目で見る富山県勢

県民グラフ

発行 昭和46年4月1日
編集 富山県総務部県民課
印刷 富山スガキ株式会社



▲かれんに咲く「高山植物」



▲雄山と鳥の鳥「らいちょう」



▲平地は真夏なのに ここではスキーも



▲若者の試練の場としての立山



▲大阪 名古屋から立山駅まで 直通が開通



▼立山・黒部アルペン